

児童発達支援ガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2023年12月
結果公表日: 2024年3月29日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%
保護者様: 25名回答、回答率 68%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・できる限り物を少なく角にはコーナガードを設置し、環境面に配慮をしている。
- ・運動を行う際に柵にぶつからないように衝立などを立てて安全に考慮している。

○業務改善

- ・それぞれが声を掛け合いながら業務に取り組んでいる。
- ・都度ミーティングの時間を設けることで、それぞれの業務の進行度と利用者の情報を共有できるようにしている。

○適切な支援の提供

- ・保護者のニーズと利用者の課題を共有し合うことで、活動が固定化してしまわないように工夫をしている。
- ・保育園、幼稚園を意識した環境設定をしている。

○関係機関や保護者との連携

- ・保育園や幼稚園へ訪問を行うことで、連携と情報共有に努めている。

○保護者への説明責任等

- ・フィードバック内で、内容と様子を決められた時間内でお話をしている。
- ・保護者の相談に適宜応じている。

○非常時等の対応

- ・避難訓練を毎月実施し、対応マニュアルに沿った行動ができるようにしている。
- ・非常時に必要な道具の位置を全員が把握している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・活動スペースに満足頂いている意見もあるが、一方でスペースが狭いというご意見もいただいた。
- ・一人一人をよく見て下さっていると言うご意見を頂いた。

○適切な支援の提供

- ・プログラムが固定化され内容に工夫されている。
- ・季節に合わせたプログラム内容になっており、子どもも楽しめている。
- ・学年ごとの横断的支援の機会を設けてほしいというご意見もあった。

○保護者への説明等

- ・「オンラインでの面談の機会を設けてほしい」というご意見や、「毎回丁寧なフィードバックを受けている」というご意見をいただいた。

○非常時等の対応

- ・緊急時の対応について、説明を受けているというご意見をいただいた。

○満足度

- ・行き渋りのご意見もある中で、利用を楽しみにしているというご意見も8割の方からいただいた。
- ・職員に会いに行くのを楽しみにしており、活動内容についても子どもが毎回喜び、楽しみながら取り組んでいる。通所を楽しみにしているというご意見があった。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・幼稚園、保育園、療育施設との連携を取る。新規利用者には契約時に訪問等の対応が可能であることを伝えていく。
- ・フィードバックでは、要点を絞り、丁寧に伝えられるようにする。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・関係機関への訪問の機会を多く作り、連携を取ることができた。保護者と関係機関、スマートキッズで連携を取り合うことで支援に活かして行くことができた。
- ・フィードバックでは、支援の内容と目的を保護者に伝わりやすい伝え方を心掛けることで子どもの細かな様子まで丁寧に伝える時間を確保することができた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・アンケートや日頃のフィードバックにおいて、教室が親しみやすい雰囲気有话やすさがあるというご意見を。
- ・利用者の特性を理解した上で、プログラムと環境を設定し、構成することができている。
- ・職員間の意見を共有し合える場と雰囲気が作られている事が、利用者の成長に寄与できている。
- ・利用者にあわせたプログラムと療育内容を構成することにより、プログラムが固定化されずにプログラムを提供する事ができている。

○改善点

- ・療育室のスペースを、少しでも広く、刺激や危険のないように工夫していく。
- ・保護者同士が関わりを持てる機会を設定する。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・スペースの使い方を工夫し、広々と有効的に使用できるようにする。
- ・保護者会や保護者参加型の特別開室日を作る。

○1年間で取り組む具体策

- ・靴箱や棚の位置などを工夫することで、スペースを有効活用できるようにしていく。安全面にも配慮をし、なるべく刺激を減らして危険個所には物の配置をしないようにする。
- ・感染症対策を講じた上で、保護者同士が関われる保護者会を半期に1度実施をする。今年度保護者参加型の特別日が好評だったため、来年度も実施をする。